

2025年度

学校名 横浜市立義務教育学校緑園学園

対象学年 4年

① 学習指導案

プログラム	No. 05 「地域カルタをつくろう」
単元名 (全40時間)	まちのよさを知ろう！伝えよう！ ～防災に備えたまちのあり方を考えて～
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住むまちのよさを理解し、防災の視点から安全で安心なまちづくりについて考える。 ・地域の特徴や課題を調べ、災害時に役立つ情報や工夫を発見する。 ・調べたことをまとめ、発表することで、地域への愛着と防災意識を高める。
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. まちのよさを調べる <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の自然・歴史・文化・施設などを調査。 ○ 防災に関係する施設や取り組みを確認。 2. 防災の視点でまちを見直す <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時に危険な場所や安全な場所を地図で確認。 ○ ハザードマップの活用。 3. まちのよさと防災の工夫をまとめる <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べた情報を整理し、デジタル上の街の模型やカルタなどにまとめる。 4. 発表・共有 <ul style="list-style-type: none"> ○ クラスや地域の人に向けて発表し、防災意識を広める。
参考資料 準備品 実施場所等	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村のハザードマップ、地域の防災パンフレット、インターネットでの地域情報 ・タブレット（調べ学習用）、模造紙・マーカー、カメラ（写真撮影用） ・学区内（町の様子の観察）、学校図書館（資料収集）、ランチルーム（出前授業）、教室（資料まとめなど）

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2	導入：テーマの確認、まちのよさと防災の関係を話し合う	児童の意見を引き出し、学習の目的を明確にする。	知識・技能：テーマを理解できているか
5	調査計画：まちのよさ・防災の視点で調べる項目を決定	調べ方や資料の使い方を助言する。	思考力・判断力：調査項目を適切に設定できるか 主体的態度：協力して計画を立てているか

15	調べ学習：ハザードマップや地域資料を活用	資料の見方を指導する。 必要に応じて質問に対応する。	知識・技能：情報を正しく収集できるか 主体的態度：粘り強く取り組んでいるか
10	まとめ：調べた内容をデジタル上の街の模型やカルタなど整理	情報の整理方法や表現の工夫を助言する。	思考力・表現力：情報を整理し、分かりやすく表現できるか
8	発表・共有：グループごとに発表	発表の仕方を指導し、質問を促す。	表現力：発表が明確であるか 主体的態度：協力して発表しているか

<留意点>

安全面の配慮

校外調査時は、児童の安全確保を最優先し、事前に危険箇所を確認する。グループ行動のルールを徹底する。

情報の正確性

ハザードマップや防災資料は最新のものを使用し、誤った情報を扱わないよう指導する。

ICT活用の指導

タブレットを使う際は、検索の仕方や情報の信頼性を見極める力を育てる。

協働学習の促進

グループ活動では役割分担を明確にし、全員が主体的に関わるようにする。

発表の工夫


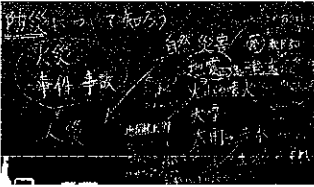

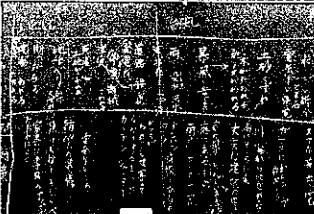
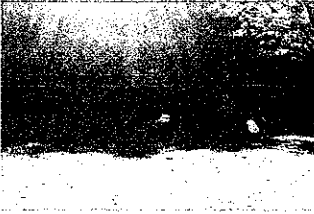

制作物は、見やすさ・分かりやすさを意識させる。発表時は質問や意見交換を促す。

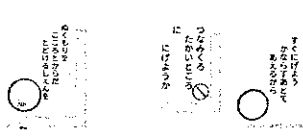

防災意識の定着

調べたことを自分の生活にどう生かすかを考えさせ、学びを実生活に結びつける。

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立義務教育学校緑園学園

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
2	教室	導入:テーマの確認、まちのよさと防災の関係を話し合う		まちのよさと防災の視点を結びつけて考えようとする姿が見られ、身近な環境から災害リスクを想像する発言が多く出ていました。
5	教室	調査計画:まちのよさ・防災の視点で調べる項目を決定	 	地域の特徴や防災の視点について積極的に意見を出し、まちのよさと災害の危険性を関連づけて考える姿が見られました。
15	教室 ランチルーム 学校図書館 校外	調べ学習:ハザードマップや地域資料、出前授業、まち探検で情報を収集	 	児童はハザードマップや地域資料を熱心に調べ、出前授業で学んだことを生かしていた。危険箇所や避難所を確認しながら、「自分の家から避難所までの道を考えたい」など主体的な発言が多く見られた。
10	教室	まとめ:調べた内容をデジタル上の街の模型やカルタなどのかたちで整理		児童は調べた情報を整理し、デジタル模型やカルタなどの形で工夫して表現することに楽し

				<p>さを感じていた。防災に関する知識を遊びやすい形に変換することで、理解を深める姿が見られた。</p>
8	<p>教室 学校図書館 校外ショッピングモールなど</p>	<p>発表・共有：グループごとに発表</p>		<p>児童は自分たちのまとめた内容を自信をもって発表し、他のグループの発表にも興味を示して質問していた。防災意識を高めるためのアイデアを共有し、協力的な姿勢が見られた。</p>

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>防災の視点を楽しく学べるよう、デジタル街の模型や防災カルタなど、児童が主体的に取り組める活動を取り入れた。</p> <p>ハザードマップや地域資料に加え、まち探検や出前授業を組み合わせ、実体験と情報収集を関連付けた。</p> <p>グループ活動で役割分担を明確にし、協働的な学びを促進した。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>校外活動の安全確保に時間を要した（危険箇所の事前確認、引率体制の整備）。</p> <p>ICT機器の操作に不慣れな児童へのサポートが必要だった。</p> <p>限られた時間内で調査・まとめ・発表を完了させるための進行管理。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>「緑が多いのがこのまちのよさだね」「避難所の場所をカルタに入れたらわかりやすいね」など、まちの特徴と防災を結びつける発言が多く見られた。</p> <p>ハザードマップやまち探検で新しい発見を楽しみながら学び、主体的に情報を整理・表現する姿が見られた。</p> <p>発表では自信をもって説明し、他グループへの質問も活発だった。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>防災教育を地域学習に組み込む意義を再認識し、ICT活用の指導力が向上した。</p> <p>担当外教諭も防災教育の重要性を理解し、今後の授業での連携意識が高まった。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み（児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等）</p> <p>調べ学習で得た情報を生活にどう生かすかをさらに深める必要がある。</p> <p>防災の視点を「自分事」として考えるため、家庭や地域との連携を強化する。</p> <p>ICT活用のスキル差を埋めるため、事前指導やサポート体制を充実させる。</p>